

第4回 国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会 議事録

日時：令和5年3月20日（月） 13:30～16:02

場所：仙台市役所2階 第1委員会室

○司会

ただいまから第4回国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会を開催いたします。

私は、本日の進行を務めます文化観光局文化振興課の中井と申します。よろしくお願いいたします。

初めに、資料の確認でございます。

本日の資料は、座席表、本日の次第、資料1から5及び参考資料1となっております。資料の不足がございましたら、お申しつけください。

本日、川内委員につきましては、オンラインでの参加となっております。

また、港委員、渡邊委員から欠席のご連絡をいただいております。

会の成立についてご報告いたします。本日は、8名の委員にご出席いただいておりますことから、要綱第4条第2項に規定する定足数を満たしていることをご報告申し上げます。

次に、本懇話会の運営について確認をさせていただきます。

本日の議事録についてですが、事務局が作成した議事録の案について、本江委員、本杉委員のお二人にご確認、ご署名をいただきたいと存じますが、両委員、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○司会

それでは、よろしくお願いいたします。

その他運営に関することで、皆様から何かご意見はございますでしょうか。

（発言の声なし）

○司会

それでは、ただいまより本日の意見交換に入ります。

これからの進行については、市長にお願いいたします。

○郡市長

皆様、どうもありがとうございます。お集まりいただきまして感謝申し上げます。

それでは、本日の議事について、次第にのりって進めてまいります。「複合施設の基本理念、目指す施設の施設像等について」「施設の概要について」「整備の考え方等について」の3点についてご議論いただくこととしております。

初めに、前回懇話会の振り返りをさせていただきたいと思っております。

前回の懇話会では、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点の機能や設備に関しまして、委員の皆様方から数多くのご意見を頂戴いたしました。当日の主なご意見につきましては、配付の資料1にまとめておりますので、ご高覧のほどよろしくお願い申し上げます。

また、前回、遠藤委員、本江委員から、ハード面の検討に先立ち、複合施設としてなすべき事業などについて、懇話会とは別にフラットな意見交換を行う場を持つべきではないかのご提案をいただいたところでございまして、その意見交換につきましては2月14日に開催をし、中心部震災メモリアル拠点の機能面の向上を中心に、有意義な意見交換が行われたと報告を受けております。委員の皆様からいただきました様々なご意見につきましても、基本構想策定に当たっての参考にしてまいりたいと存じます。

続きまして、前回の懇話会からこれまでの間、本市において実施いたしました市民意見の聞き取り、それから関係者へのヒアリング、また、音楽ホール関連シンポジウムの開催結果及び仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョンの最終案について、担当局から説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局（佐々木文化企画推進担当課長）

それでは、資料2-1をご覧ください。

こちらの資料は、市のホームページ上で募集をしております市民の皆様からいただいたご意見、それから在仙のマスコミの方々にヒアリングを行った際にいただいたご意見、また、資料の裏面になりますが、障害者の文化芸術活動を支援されている団体の方からいただいたご意見を載せております。いただいたご意見はご覧のとおりでございますので、詳細な説明は省略をさせていただきます。

次に、資料2-2をご覧ください。

こちらは、2月4日に開催をいたしました音楽ホール関連シンポジウムの概要を載せております。本杉委員をはじめ3人の異なる立場の方々から音楽ホールに関して大変貴重なお話を頂戴したところでございまして、その概要や来場者アンケートの内容を載せております。こちらにも詳細な説明は省略いたしますので、後ほどご覧いただければと存じます。

○事務局（市川交流企画課長）

続きまして、資料の2-3をご覧ください。

仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョンの最終案でございます。

委員の皆様には、前回1月29日の懇話会にて本ビジョンの中間案をお示しさせていただいておりました。この間、1月から2月にかけてパブリックコメントを行いまして、いただいたご意見も踏まえた概要版が今お手元にある資料でございます。

なお、中間案から大きな変更はございませんでした。

本資料に基づき、先週の金曜日に、最終回となります青葉山エリア文化観光交流ビジョンの懇話会を開催いたしましてご議論をいただいたところでございます。

その際の議論の中身といたしまして、パブリックコメントを経て、このエリアに対する市民の皆様に関心の高さがうかがえたということですか、目指す将来像の中に自然

を生かすという言葉を入れたほうがよいのではないかと。また、最終版には、懇話会委員からのメッセージとして、参考資料のような形で別紙を1枚作ってもよいのではないかなどのご意見をいただいたところでございます。これらの意見を踏まえまして、今後、必要に応じた修正を加え、今月中にビジョンとして策定することとしております。

なお、策定いたしました最終版につきましては、委員の皆様にご提供させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○郡市長

ただいま、市民意見の聞き取り、それから関係者へのヒアリングの状況、また、ビジョンについての説明をさせていただいたところでは。

この件につきまして、皆様方から何かご意見やご質問があれば、ここでいただこうと思っておりますが、いかがでしょうか。

(発言の声なし)

○郡市長

よろしいですか。それでは、意見交換に入らせていただきます。

初めに、複合施設の基本理念、目指す施設像等についてでございます。

担当から資料の説明をさせます。よろしくお願いいたします。

○事務局（田中震災メモリアル事業担当課長）

それでは、複合施設の基本理念、目指す施設像等についてご説明いたします。

資料3-1をご覧ください。

1. 複合施設の基本理念です。基本理念の案として、「人・文化・まちを育む創造の広場～人と人、過去と未来、仙台と世界を文化でつなぐ～」を掲げております。人が育つことで文化が育ち、まち全体が育つという営みの拠点となること、全ての人に開かれ、創造的取組の輪が広がる広場を目指すことを表現しております。副題につきましては、文化が人と人を巡り合わせることで、3.11に起点を持つこの施設が、先人たちの営みの過去にまなざしを向けつつ、よりよい未来づくりに生かしていくこと、仙台ならではの文化を世界に発信していくこと、これらを行なえる施設となるという思いを表しております。

2 ページ目の概念図につきましては説明を割愛いたします。

3 ページ目をご覧ください。目指す施設像の具体化に向けた考え方についてです。

施設像①に関しましては、多様な人々の交流とにぎわいを生み出しつつ、文化芸術、災害文化を結びつけるような担い手づくりに取り組んでまいります。

施設像②では、文化芸術の手法を取り入れながら、3.11に思いをいたす取組やアウトリーチ活動等の取組を検討してまいります。

次に、4 ページ目でございます。

施設像③については、各施設・機関との連携を図ること、回遊性の向上、交流人口の

拡大、シビックプライドの醸成につながる取組を進めてまいります。

次に、5ページ目でございます。

これら3つの施設像を相互に関連させ、交流から生まれた魅力的な創造の発信、こちらがさらなる交流と創造を促すという好循環により基本理念を具現化させていくという考え方を示しています。

なお、5ページ目の一番下、これまでの懇話会でもご意見を頂戴しておりました施設名称につきましては、本基本構想の理念等を踏まえ、今後検討を進めてまいります。

次に、6ページ目でございます。

4. 連携・協働事業の推進です。両拠点の特性を融合させた本施設ならではの連携・協働事業を実施してまいります。下記の事業例は、前回の懇話会資料でお示した各拠点の事業の取組の具体例から例示としてピックアップをさせていただいたものでございます。例えば、文化芸術、災害の記憶など、地域に根差した事柄をリサーチしていくこと、あとは、メモリアルコンサートの実施等により、3.11の経験と想いを未来に継承し続けること等々をお示しています。

なお、この四角囲みの一番下に記載したとおり、今後、さらなる事業展開のアイデアが生まれるような推進体制の構築を図ってまいります。

次に、7ページ目でございます。

5. 開館までの事業のあり方でございます。ハードの完成を待つことなく、多くの方に本施設への関心を持っていただくとともに、各主体、各機関との関係性の構築等を図るよう、多様な主体と協働した事業を展開してまいります。特に、記憶の風化が進むメモリアル拠点の事業は、先行事業の積極的な実施を図ってまいります。

次ページ、8ページから10ページ目まででございますけれども、こちらの参考資料については説明を割愛させていただきます。

○事務局（佐々木文化企画推進担当課長）

続きまして、資料3-2をご覧ください。

こちらの資料は、前回の懇話会で既存施設との役割分担について分かる資料が欲しいとのご意見を頂戴いたしましてご用意をしたものでございます。

音楽ホールにつきましては、令和2年度にホール体系の整理を行っておりまして、新しい音楽ホールにつきましては、青年文化センターと並び、創造発信拠点と位置づけておりまして、市民の皆様にも最も身近な各区の文化センターや、新県民会館などの広域集客拠点とは異なる位置づけの施設であると整理をしているところでございます。

○事務局（田中震災メモリアル事業担当課長）

次に、裏面の（2）メモリアル拠点についてです。

平成26年の仙台市震災復興メモリアル等検討委員会報告書においても、中心部・沿岸部両拠点の事業展開について触れておりますが、改めて以下のとおり整理をしております。

まず、○の2つ目でございますけれども、メモリアル交流館につきましては、沿岸部に軸足を置いた被災状況や海辺の暮らしや文化を伝える場として、○の3つ目、荒浜小

学校と荒浜地区住宅基礎につきましては、津波の脅威・教訓を伝える場としての役割を果たしております。

これに対し、中心部拠点では、内陸部も含んだ市域全体の震災の記憶を呼び起こしつつ、災害文化の創造と継承、国内外への発信を行う未来志向の役割を担ってまいります。

また、中心部拠点は、対話と交流から未来の災害に備える災害文化の醸成を牽引する交流創造タイプ、こちらに軸足の重きを置き、その差別化を図ってまいります。

資料3-1、3-2の説明は以上でございます。

○郡市長

ただいま、複合施設の基本理念、それから目指す施設像についてご説明を申し上げました。

では、ここから委員の皆様方にご意見を頂戴してまいりたいと存じます。今日は、発言順の指定は設けませんで、ご意見があるという方、ご発言されたいという方、挙手いただきまして、こちらから指名をさせていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

では、本江委員、お願いいたします。

○本江委員

資料をおまとめいただきましてありがとうございます。

特に一番最初の基本理念の箱書きの中のところですが、「人・文化・まちを育む創造の広場」ということなんですが、一言で感想を申し上げると、やっぱりちょっと軽いと思います。間違っていないけれども、人・文化・まちを育むのはそのとおりだと思うんですが、やっぱりここはそもそも東日本大震災の経験を踏まえて造ることになった場所であるし、たくさん命を失って、住む場所を失った人もおり、しかるべき備えがあれば被害はもっと小さくできたのではないかという反省に立って造る。だから、未来の人たちのためにこの経験を傳承するんだという、言葉は難しいですけども、重みというか、たくさん命を引き受けてこれをやるんだという覚悟があると思うんですね。

それがこの「人・文化・まちを育む」となると、ポジティブでいいんですけども、ポケットパークのキャッチコピーみたいにも聞こえるし、それよりは、もっと大きな文明的な経験をして、それを踏まえてやる都市全体の覚悟を示す言葉としては、もう少し重厚なものというか、何か必要かなという感じがします。こうすればいいじゃないですかというのをすぐ言えないのは申し訳ないんですけども、私を知る多くのメモリアル活動に取り組んでいらっしゃる方の思いからすると、ちょっとさらっとした言葉遣いだなという感じがするのではないかと思います。

今までのこの懇話会では、東日本大震災のこともそうだが、これをさらに普遍的なものとして、未来の人たちも包摂して、海外の人たちも包摂していくような、より大きな概念が必要で、それを例えば災害文化と呼ぶのだというふうに申し上げてきたこともありますから、今になって急に3.11のことをちゃんと刻印しろと言うのは少し矛盾するように聞こえるかもしれないけれども、でも、やっぱりそのバランスとして、そこにある3.11のことをどう引き受けていくのかという、ある重さを持った理念がうたわれる必要があるのではないかというのが率直な感想です。

副題のほうで、ここで関わることを織り込むのはいいと思います。

あと、このキャッチコピーだけだと、3.11のこともぱっと入ってこないし、音楽の場所だということも言葉の中にあまりぴんとくるものがない、ちょっとジェネラルな言葉ばかりなのでね。命に関わる場所であり、音楽のための場所であるということがうまく入っている必要はあるだろうなと思います。「創造の広場」というふうに終わるのはいいと思うんですけどもね。そのような印象を持ちました。

ほかにもいろいろありますけれども、まずこの一番大事なところだと思うので、そこで感じたところで申し上げました。

○郡市長

ありがとうございます。

今、本江委員、これまでも中心部メモリアル施設の議論を中心的に担ってきた委員であるからこそ、この基本理念のキャッチコピーがやはり軽いのではないかというご指摘でございました。命という言葉、それから音楽という言葉もなくて、少し重さということについて考えるべきではないかというご指摘だったわけです。

ほかの委員の皆様方、今のご指摘についてはどのような感想をお持ちになっていらっしゃるか、あるいはまた、それぞれがどのように今回お話をさせていただいた基本理念、目指す施設像についてどのように思われたのか。今、基本理念について本江委員からお話がありましたので、この基本理念についてほかにご意見がある方、いただけたらと思いますけれども、いかがでしょうか。

それでは、本杉委員にお願いいたします。

○本杉委員

本江委員とはちょっと違う意見なんですけれども、僕はとてもいいんじゃないかなと思っています。今まで話してきたキーワードが一通り入っていて、この短い言葉で何か全体を表現するというのは本当に多分難しいことだと思うんですね。災害メモリアルのほうも音楽ホールのほうも、それぞれこの人とか文化とかまちというものに非常に関わる内容なので多分これを入れて、それぞれの施設が、それぞれの活動が創造的であるということを多分念頭に入れてこの言葉になっているんじゃないかなと思うんです。

だから、なかなか、じゃ何と言われても私も困っちゃうくらいで、確かに軽いと言われれば軽いのもかもしれないけれども、ある意味で明るく未来を志向するという点では、こういう表現、もっといい表現あればまた改善していただけたほうがいいと思うんですが、今考えられる段階ではいいのかなというふうには思います。

まず、このページだけですかね、最初。そんなところですよ。

○郡市長 ありがとうございます。

本杉委員からは、これでいいのではないかというお話でした。

音楽ということも文字としては入っていないわけですけども、文化という中にこれは包含されるというふうな意味合いで、いいのではないかというようなお話でございました。

それぞれ、本杉委員は音楽ホールの専門家でいらっしゃいます。メモリアルのほうからは、どうかというようなご意見だったかと思うんですけれども。

○本江委員

いや、そこで対立があるわけではないので。

○郡市長

対立があるわけではないと、今、本江委員からもお話がありましたけれども。川内先生、いかがでしょうか。

○川内委員

私は、今の本江先生のお話に共感するというか、同じようなことを考えまして、やっぱりこの施設が、いろいろな理由があるにせよ、この2つの施設が複合施設としてできるそのきっかけとしては、やっぱり3.11の経験ということを踏まえる必要がある。そういう意味では、もう少し何かできないかなと思っていたところなんですけれども。そこを踏まえて、資料3-1の2ページで、この基本理念がどこに位置づくかという形で図示をしていただいている、目指す施設像があり、その上にこの基本理念が立っているという、そういう形になっていると思うんですけれども、そうしますと、目指す施設等が①②③とありまして、そのうち、①が新しい価値を創造する場、②が仙台のオリジナルを発信すると。それ自体はそのとおりであると思いますし、異論があるところではないんですけれども、どんな新しい価値をつくるのか、新しい価値というのがこの仙台オリジナルということだと思えるんですけれども、どんな仙台オリジナルを発信するかということが目指されるべきであると。

となったときに、今、市長のご発言、音楽も入っていない、命も入っていないとおっしゃっていましたが、まさにその通りで、この理念がもう少しやっぱり具体的であるべきかなと。本杉先生おっしゃるとおり、なかなか難しいとは思いますが、これだとやっぱり一般論過ぎるなど。この複合施設じゃなくても何か当てはまりそうな、そういう理念になってしまっていて、もう少し具体的に、何を創造する、何を発信する、そこが透けて見えるような言葉が並ばないかなと。となったときに、やっぱりもう少し音楽に関わることであったり、震災・3.11に関わる言葉がこの基本理念の中に含まれるほうが望ましいかなというふうな印象を持ちました。

○郡市長

ありがとうございます。

川内委員からも、もう少し再考するほうがよいのではないかとということでもございました。

この理念だけでもいろいろなお考えがあるなというふうに思いました。梶委員、お願いします。

○梶委員

私は、理念と、基本理念なので結構シンプルなもののほうがいいんじゃないかと思っていて、結構今までの議論が端的に表現されているんじゃないかなというふうに私は感じました。なので、音楽ホールですけれども、音楽にもしかしたら特化しなくて、もっとコラボレーションとか、いろいろな可能性もあると思いますので、理念のところで結構具体的なことをうたってしまうと、そこに縛られてしまうんじゃないかと思うから、もうちょっとそれぞれの施設が目指すところの根幹というか、そういうところを表現するだけでいいんじゃないかなというふうに感じています。

私がどちらかというと気になっているのは、この副題のところの「人と人、過去と未来、仙台と世界を文化でつなぐ」というところ、とてもいいと思うんですけども、今までの議論の中で、世界とつながる何かというのをあまり議論してきていないなというふうに思ったので、今後の議論の中でこういうところをもうちょっと深めていくと、これが実になるというか、具体的につながるものになっていくんじゃないかなというふうに感じました。以上です。

○郡市長

ありがとうございます。

梶委員からのご指摘でした。

垣内委員からも手が挙がっていましたので、お願いをいたします。

○垣内委員

私も、基本理念ですので、あまり詳細に定義づけてしまうと、それ以外のものがちょっと除かれてしまうというふうに考えられてしまうんじゃないかという懸念がありますので、できるだけ広くインクルーシブな言葉を使われるのがいいんじゃないかと思うので、この基本理念、どこの施設でも同じようなこと言っているじゃないかという話ですが、そこは実装した、実際の実践で差別化するというのも十分可能かと思います。

ちょっと気になるのは「文化」です。これ文化という言葉を使っているところもありますけれども、同じページにも文化芸術活動とか、それからほかのページだと、音楽ホールとか、それから実演芸術とか、いろいろな言葉が出てくるんですね。私自身は「文化」でいいと思っています。それはほかのものを排除しないという意味で、一番広く包括的な概念なのでいいんじゃないかと思うんですけども、その後のところが音楽だったり実演芸術であったり、つまり音楽の中に実演でない部分もあるので、そうやってどんどん細分化していく部分がちょっとほの見えているので、このあたりのワーディングの整理はしたほうがいいんじゃないかなと。

多分、このホールできたら、クラシック音楽が中心になるだろうということは想定されますけれども、何たって世界に冠たる仙台フィルがあるところですから、ただ、ほかの様々な分野の、ジャンルの、今、インターディシプリナリーな活動もたくさんあります。そういったものも排除しないという姿勢を見せるという意味で、文化という言葉のほうがいいかなと。ちょっとワーディングの整理が必要かなというふうには思っております。

未来志向というのはすごく大事なことじゃないかと思うんですね。3.11を経験した

からこそ、メメント・モリというんですかね、そういう重たい何か経験に裏打ちされた未来志向という意味で、ほかの未来志向と一般的には言われているものとは違うということがこの後を読めば分かると思うので、私はこの基本理念の四角囲みのところはとてもいいんじゃないかというふうに思いました。

○郡市長

垣内委員、ありがとうございます。

実演芸術というのは、音楽ということにこだわらず、ほかのことも含めてというふうな思いもあり入れたワードです。それと、世界に向けたところですけども、これは音楽でも世界に向けたコンクールもやっておりますし、また、災害文化をやはり世界に発信していく責務があるというふうな思いで、この世界という言葉を使っているということでもあります。

今の基本理念というところは、目指す根幹なので、詳しくいろいろ書き込まなくても、まずはいいのではないかというような趣旨のご発言もありました。

では、本江委員お願いいたします。

○本江委員

僕も、これ以上長く詳細に書き込めと言っているのでは全然なくて、このぐらいの文字数で、1行で書かれるべきものであるということは全くそのとおりだと思います。ただ、「人・文化・まちを育む」というのは、さっきも言ったけれども、全然間違っていないし、方向はいいんだけど、何かもうちょっと違う言葉遣いはないかと言っていて、詳しくしろと言っているわけではないです。

○郡市長

分かりました。ありがとうございます。

では、遠藤委員、お願いします。

○遠藤委員

この懇話会が始まってから、やっぱりこの複合施設が本当にみんなに愛されて、音楽とか災害関係の方だけじゃないいろんな方が本当に集うために、どういうふうに表現したらいいんだろうというのはすごく悩んできてまして、その中で、音楽ホールもそうだし、メモリアルもそうだし、両方に共通する大事なこととか価値って何だろうかなというのを考えてきていて、その中で改めて認識したのが、先ほど本江先生もおっしゃっていましたが、この文化も音楽もメモリアルも、本当に命とか生きるということの重要性とその創造を担う施設なんじゃないかなというのを私なりに再認識をしていました。

ふだん当たり前だけれども、実は当たり前でないのが、音楽もそうですよね、音楽があって当たり前だったということが災害時には失われたわけですから。そういった震災文脈だけじゃなくて、例えば音楽とか芸術というものも、本当に命とか生きるということを愚直に率直に表現したり、表現せずにはいられないというような情熱もあつたりと

ということにつながると思うので、何か私は、四角の中というよりは、改めてこの複合施設の両方の土台につながるような、命とか生きるというような何かワードを本文とかに少し入れてもらおうと、ほかの文化施設とは違う雰囲気とか表現とか、そういったものも出せるんじゃないかなと。音楽ホールにとってもメモリアルにとっても、両方とも大事なものであるということで、ちょっとそういった言葉を改めて確認をしてみました。

○郡市長

なるほど、ありがとうございます。

ここまで皆様方から基本理念についていろいろご意見いただいておりますけれども、佐藤委員は何かご意見ございますでしょうか。

○佐藤委員

私は、この基本理念、全く疑わずに、すてきだなと思ったほうであります。何か音楽のほうの立場とメモリアルのほうの立場で見え方が違っているのかもしれないなという気もして、私としては、これから新しいホール、それから複合施設で新しいことが展開されていく、そういったことの期待感といいますかね、そういうものをずっと感じておりまして、そういった意味では、今のこの前向きな未来志向ということでしょうか、こういう基本理念というのがとてもすてきだなというふうに私は思って聞いておりました。以上です。

○郡市長

ありがとうございます。

今野委員にもお願いいたします。

○今野委員

私、最初ぱっと見たときは、非常にすっきり入ってきたんです。ただ、その後、複合施設だ、音楽だ、震災だというふうに、何ていうんでしょうかね、ごた混ぜになっていくと何となくすっきり読めなくなってきた。

なぜかとなると、まちを育むという考え方って、多分、結果の部分じゃないのかな。それがサブタイトルのところで、仙台と世界をつなぐというふうなところで言い表すこともできなくはないし、青葉山にあるまちづくりにつながるというのは否定するものではありません。ただ、あえてこのところで3つ同じ要素のものを並べると、何となく違和感、私個人としては感じてしまうという程度です。

非常にこれぐらいの文面でまとめるというのは大変な作業だと思います。何ていうのかな、本当に命だとか、そういう要素をうまく入れられればいいのかという感じはします。以上です。

○郡市長

ありがとうございました。

全員の委員の皆様方にご意見を頂戴することができました。ありがとうございます。

ここで基本理念のところは以上とさせていただいてもよろしいでしょうか。

目指す施設像について、それではもう少しちょっとご議論いただければ幸いに存じますけれども、いかがでしょう。基本理念については、少し持ち帰った上で、検討をさせていただきたく存じます。

目指す施設像について、それでは、本杉先生、お願いします。

○本杉委員

この目指す施設像の1、2、3で、3つぐらいにまとめるというのはとてもコンパクトでいいと思うんです。

言葉尻になってしまうんですけども、何か僕は、1番目が、文化を通して人が交流して新しい価値を創造するというような言い方のほうがいいかなと思っています。2番目が、都市文化を磨き、仙台オリジナルの発信につなげる場というような言い方で、3番目はこれでいいかなというふうに思うんですが、要するに、最初のキーワードがやっぱり文化を通しての活動、2番目がその文化を通した都市をどうつくっていくかという話、3番目がみんなの場所だという、そういうくくりはどうかなと思いました。

○郡市長

ありがとうございます。

本杉委員から施設像についてご指摘をいただきました。

ほかの委員の皆様方からはいかがでしょうか。

では、本江委員、お願いします。

○本江委員

基本的にはこの3つの構成はいいと思います。今、本杉先生が言われたような3つのポジショニングをもっと鮮明にするやり方というのには同意できます。

さっきと似たことを言いますけれども、特に①のところ、多くの人が気軽に、自由に訪れてというのはそのとおりなのだが、第1回の懇話会のときにも言ったけれども、ここは、こういうカジュアルに毎日のように来たりできる場でもあるけれども、特別なときには背筋や居住まいを正して集まる場所でもあるということがあるので、いろいろなシチュエーションや機会があって、それぞれの機会に応じた場所であるということ、いろんな機会が用意される、あるいは人々が集まることによってそういう状況が生まれるのだという、何かそうしたびりっとしたところもちゃんと入れたい、そういう感じがいたします。

こういう施設整備のときには、気軽に、自由に来られて、フラットでということが、もちろんそうでなくてははいけませんけれども、ただそれだけの楽しいばかりの施設ではないということがこの3つの文章で書いたときにも何か入っているといいかなという感じがします。何かそういうトーンを整えるときに、ここが震災を契機として造られた場所であるということがちゃんと織り込まれていることは必要かなと思います。

○郡市長

ありがとうございます。

ほかの委員の皆様方はいかがでしょうか。

この3つ、まとめさせていただいたところですけども、確かに、未来に、過去と未来をつないでいくわけなんですけれども、未来に向けた方向性のほうが読み方によっては重点的であるというふうに捉えられるかもしれないなというふうに、これは私個人の感想でもあります。今お話を伺っての感想にもなりますけれども、ここはどうなのでしょうかね。

今、本江委員がお話しになられた震災を知るところは、②のところにより多く込めているところではあるんですけども、①のところにもそのような何かしら必要ではないかという、そういうご意見だったんでしょうかね。

○本江委員

そうですね。

○郡市長

どうでしょう、今、目指す施設像のところでご議論いただいておりますが。

では、梶委員、お願いいたします。

○梶委員

資料としてこの流れでずっと作っていくことを考えると、一番最初に基本理念があって、その目指す施設像があって、それがまた次の段階でもうちょっと具体になってくるので、ここの段階でそんなに詳しく書かなくても、その次を読んでいくといろいろなことが分かってくるなというのが感じられますので、私はこのところでいいかなと。さらに本杉先生おっしゃったようなくりにしていくとより分かりやすいんじゃないかなというふうに思いました。

○郡市長

ありがとうございます。

では、川内先生よろしくお願いいたします。

○川内委員

今、市長がおっしゃった、震災のことを目指す施設像の②のところに比較的多く込めているというお話ですけども、何かこの②を見ると、知る、現在と過去をつなぐというところで、それが仙台を知る原動力になるという話で、知るということが現在と過去をつなぐ手段というんですかね、そういう位置づけになっていると思うんですけども、僕の考えるところもそうですし、本江先生も多分そうだと思うんですけども、いわゆる知るということ以上に、この施設が、ある種、未来に向かって創造していく、発信していくという形でどんどん進むというイメージがあるんですけども、一方で、立ち止まる瞬間というんですかね、3.11なり、あと具体的な事業として過去の仙台の災害の

アーカイブみたいなことも企画されているということを考えますと、そうした過去の仙台で暮らした人々の生きてきた軌跡に思いを致すというか、思いをはせるというんですかね、そういう立ち止まって考えるそういうニュアンス、単なる「知る」だけではなくて、そういうニュアンスを何か込められないかなというふうに考えました。

大きな流れとしてはこの3点でいいと思うんですけども、ちょっとそのあたり思ったということです。

○郡市長

ありがとうございました。

委員の皆様方にいろいろご意見いただいて、大変ありがたく思うところです。様々な想像がさらに膨らんでいくという、そんな気持ちで聞かせていただいているところですけども、この知るというワードについて川内委員からご指摘をいただいたところでしたけれども、ほかにも何かご意見があれば。

確かに、これは、入り口のところで、基本理念があって、目指す施設像という入り口があって、そしてだんだん具体のところを展開をされていくという流れになっていくわけなのですが。

本杉先生、お願いします。

○本杉委員

僕はこの「知る」というのはあまりいい印象を持ちません。何か、おまえたち知らないだろう、俺が教えてあげるぞみたいな感じに聞こえちゃって、だからあまりこれを積極的に言わないほうがいいのかなと思います。むしろ、皆さん、経験している人も経験していない人も、やっぱり直接的にそう言われると、あまりいい気持ちがないというか、じゃないかなと思うので、教育施設とはちょっと違うと思うので、やっぱりそこはちょっと控え目なほうで、控え目に表現したほうがいいんじゃないかなというふうに思います。ちょっといつも反対意見みたいなことになっちゃって申し訳ないけれども。

○郡市長

今、川内委員も、そうだそうだと深く何度もうなずいておられるのがモニターに映っておりましたけれども、今の本杉委員のご指摘も、なるほどということも感じた次第でもあります。ここはもう少しいろいろと検討していきますかね。

(事務局より「はい」の声あり)

○郡市長

ありがとうございます。

ほかには何かありませんでしょうか。

垣内委員、何かありますでしょうか。

○垣内委員

すみません、私はちょっと単純なので、この基本理念のサブタイトルが「人と人、過去と未来、仙台と世界」とあるものですから、それをつなぐという役割をここに書いているのかというふうに思ってしまった、①は人と人をどうつなぐつもりなのかということを書いていると。②のところは、過去と未来をどうつないでいくのかという未来志向、忘れずに、でも新たに明るい未来をつくっていくというところをこの②で書くのかと。③は、仙台と世界の話をするのかと、それをどうつなぐのかというのをお話するのかと、思っていたらちょっと違って、まだ仙台と世界をどうつなぐのかというのは議論が十分に進んでいなかった、ちょっと手がついていなかった部分かと思うんですけども、最後は「市内外から」ではなくて、本当に「世界中から」ということのほうが収まりはいいのかなという感じがしました。

あと、「知る」については、そんなに悪い言葉じゃないんじゃないかと。やっぱり相手を知らないと関係性もつくれませんし、さっくり見たときに、ちょっと世界に向けて、②に国内外が入っているんですね。③のところは市内外なので、ちょっと小さくなっている、これは少し広めにしたほうがよろしいんじゃないかなという感じがしましたが、整理としては非常に分かりやすいかと単純に理解しました。

○郡市長

ありがとうございます。

いかがですかね。今、幾つかご指摘もいただきましたし、こう考えているのではないかという、そういう言わんとする意味を指摘いただいたところでもございましたけれども。

ただ、私も、知るということは確かに重要であって、ここでこのワードだったんですけども、先ほどおっしゃられた「仙台を『知る』原動力となるとともに」という、やっぱりこれ見ようによってはちょっと、やはり考えてもいいワードかもしれないというのを私は今のお話から感じたところでして、これは再考させていただく方向で何かちょっと整理をしたいと思います。

先ほどの垣内委員の最後の3番目の「市内外から人が訪れたいくなる場」というところの「市内外から」についても少しどうなんですかね。

○事務局（金子文化観光局長）

ちょっと控え目に書いてしまいました。

○郡市長

控え目に書いてしまったと。では、事務局から。

○事務局（梅内まちづくり政策局長）

今までの1ページ目のご意見と併せてなんですけれども、仙台を知る原動力となるというようなところが、知るという言葉のよしあしというところには評価があらうかと思いますが、東日本大震災を契機として造られる施設だということもありまして、仙台を

知るといよりは、東日本大震災の教訓を学ぶとか、そういうようなものを②に入れていくと、目指す施設像の少なくともメモリアル部分のところが明確になるので、②にそれを入れて、先ほど垣内先生からもありましたが、国内外に向けて発信していくところを③のほうに要素を移して再整理していくと分かりやすくなるのかなと思ってご意見を聞いておりました。そのような形はいかがでしょうか。

○郡市長

では、遠藤委員、お願いします。

○遠藤委員

②の中の中心部震災メモリアル拠点の表現のところなんですけれども、ここの丸の1つ目に「歩みを知り、学べる拠点を目指します」というふうに書いてありますが、これが音楽ホールと特性のちょっと違う点かなというか、ある意味それぞれの特性を伸ばしていく部分なのかなと思っています。

やはり沿岸部の拠点も含めて、中心部の拠点も、やはり教育とか学びという観点も大事になってくる機能ですので、まさに命を守って、そしてそれを実装していくためには、やっぱり学ぶ、あと仙台にお祭りとか石碑などでもずっと古来伝わってきたものですか、そういったものもありますので、それぞれが音楽ホールもメモリアルも違って特性があって、それぞれを伸ばすという観点もあるかと思しますので、この2の中の中心部メモリアル拠点の中で少し、学べるとか伝えるということの特化してちゃんと伝えれば、お互いの特性を損なうことなく表現できるんじゃないかなと思いました。

○郡市長

ありがとうございます。

そのほかは何かありますか。

○佐藤委員

私は本当に、いいと思って拝見しておりました。

今、知るといふところの言葉についていろいろお話あったんですけども、何か仙台に興味を持ってもらうという意味で、こういう使い方も悪くはないんじゃないかなというふうに思っております、あまり疑問は持ちませんでした。

市内外からということも、まずは国内からということなのかなというふうなふうに思っておりましたので、それがやっぱり世界につながっていくということはやっぱり念頭に置いておいたほうがいいかなというふうには思いますが、私はそんなに大きな問題を感じずに読ませていただきました。以上です。

○郡市長

ありがとうございます。

今野委員もよろしいですか。

○今野委員

私もここは意外とすっきり読めました。ただ、知るという言葉の表現だとかというのは、確かにおっしゃられるとおりの部分があるな。知るというのは、1歩2歩前に出て自発的になるという意味になってきますよね。そういうことであれば、遠藤委員おっしゃったように、学ぶという表現もあり得るわけですし、もうちょっと手前で止めようと思えば、触れるという、それはあまりにも消極的かもしれません。いろんな接し方といいますが、そういうものがあるんだろうけれども、どういうレベル感を求めるかというふうなことになっていくんじゃないかなと思っています。

○郡市長

ありがとうございます。

今、お話伺いましたけれども、施設の基本理念、それから目指す施設像について、後段では少し細かく触れさせてもいただいているところですが、いかがでしょうか。

では、本江委員、お願いします。

○本江委員

ちょっとどこに入れるといいのかとは思いますが、仙台市のいろいろな上位計画があります。総合計画や、あるいは今まさに、仙台市文化芸術推進基本計画をつくり出すよということで所信を出されていたと思いますけれども、そうしたものの関係がこうなっていますというのがどこかしらにあるべきかなと思います。少なくとも、今日の資料の中にはそれはないですし、これはいわゆる文化施設でもあるけれども、まちづくりのあるコンセプトを示す施設でもあるということで、すごく悪い想像をすると、何かいろいろな政策の中にあまり位置づけられていなくて、ぽーんと出てきて、何となく事業が継続しないまま、ふわっと、だんだん尻すぼみになっちゃうみたいなことが一番まずいので、仙台市の骨格になっている総合計画とか、あるいは文化芸術推進基本計画、これからつくられるということなので、これ垣内先生にそういうものの意味をちゃんと教わらないといけないと思いながら言っていますが、そうした上位計画とのこの施設や事業との関係はこうなんで、だからこういう覚悟を持って市は取り組みますということが、どこに書くといいのかということはちょっと今分かりませんが、何かちゃんと位置付けてあると、こうした活動に取り組んでいる市民団体の方とか、そうした方にある安心というか、市の覚悟を伝えられるのではというふうには思った次第です。

○事務局（田中震災メモリアル事業担当課長）

今、本江委員からご指摘ございました件でございますけれども、今回の資料は、複合に関する部分ということでまとめさせていただきましたが、今後、今回のご意見を踏まえて基本構想中間案のほうにまとめていきたいと思っております。現段階の想定では、今お示ししているこの資料3-1の理念の前に、仙台市の上位計画とこの基本構想との関係について盛り込むというふうには考えているところでございました。

○本江委員

ありがとうございます。

この基本構想のほうに上位計画との関係が書かれると同時に、今つくっていたり直していたりしている計画のほうにこの事業のことがきちんと書き込まれて、つじつまが合うようになっていないといけないので、そこの調整もぜひお願いできればと思います。

○郡市長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

本日は、もう少しいろいろと闊達にご意見をお出しただけるといふうに実は思っておりましたけれども、相当お示しをさせていただいたものがまとまっていたというふうに捉えてよろしいのでしょうか。

では、遠藤委員、お願いします。

○遠藤委員

今、本江先生から上位計画とのお話ありましたけれども、上位計画の総合計画のほうでは、やはり東北との連携ですとか、東北と共に発展するというようなこともありますので、そういった意味では、この市内外とか世界とか、そういった少しエリア的な表現のところでも、東北ということも何か意識して書けるといいのかなとは思いました。

あと、音楽でもメモリアルでも、何か東北エリアの拠点というところとやっぱり仙台になるかと思しますので、そういった東北の中での仙台の役割ということもあるかと思しますので、そういった部分も書いていただけるといいのかなと思しました。

資料の3-2で、関連施設との役割分担のところの2ページの下 4象限の図なんですけれども、本拠点の目指す姿ということで、赤枠にさせていただいているんですけれども、この赤枠がもうちょっと交流創造タイプ以外の3象限のほうに少しずつはみ出るような形で赤枠にさせていただいたほうがいいのではないかなと思しました。

その理由といいますのは、交流創造、何をもって創造していくのかということ、やはり今まで災害や震災に関わる全ての体験と全ての記録と全ての人をもって交流創造していくので、防災もミュージアムも伝承も何らかの形では必ず関わっていきますから、この赤枠はちょっとほかの3象限のところと若干触れているというんですかね、差しかかっているような図のほうの方が適切かなというふうに思いました。以上です。

○郡市長

ありがとうございます。

今、中心部震災メモリアル拠点の位置づけや役割というところについてご指摘をいただいたところ。もう少し広めにとってほしいというご意見でございました。

今、少し資料の後ろのほうも含めてお話をいただいてもいるところなんですけれども、ほかの委員の皆様方からも、それでは何か新たなご指摘等々あればお聞かせをいただきたいと思いますが、いかがでしょう。

では、垣内委員、お願いいたします。

○垣内委員

この資料の3-1、全体像を踏まえてのコメントでよろしかったでしょうか。

私は、以前も申し上げましたけれども、やはりこの時期、こういう新しい文化施設を造るとするのは非常にご英断だろうというふうに思っております。逆に懸念する部分もございまして、少子高齢化の中、財政的な負担もかなり伴うものでありますから、やはりよりよいもの、市民の方々がやっぱりよかったねと言っていただくようなものにしていただくのがベストだというふうに思っております。

その観点からいうと、まずミッションのところですね、この基本理念、これは非常によろしいのではないかというふうに考えております。一方、このミッションを達成するためにどういう実践をしていくのか、これが非常に重要なことだろうと思うんですね。ロジスティックスというんでしょうか。先ほど本江先生も、ほかの計画とか条例とか、そういった市全体の動きの中でこれをどう位置づけていくのか、また、これにどういうふうに、今後、開館までに対応していくのかというのが非常に重要なポイントだろうと思います。

今までいろいろなホールができて活動していきまして、その成果というんでしょうか、非常に効果が上がった部分もあれば、どうもこの部分はなかなか難しかったねというようなことも分かってきております。こういったことをきちんと検証されて、この後の資料にもあるのかもしれないんですけども、きちんと検証された上で、仙台市にとってベストなベストミックスというのを考えていただきたいというふうに思うわけですが、その中で特に強調したい点は、この資料の7ページのところで、開館までの事業のあり方、ここが、せっかくのこの準備期間、リードタイムですので、ここを充実させていくことこそ、次のこのオープンしたときに即走れるという、それによってより効果が上がるというところにつながっていくんじゃないかと思うので、基本理念もすばらしいですし、目的とするそれぞれの場の説明も非常によくできているので、これをどう実装していくのかというところをぜひご検討いただきたいというふうに思いますし、開館までの準備期間でどういう、この文化芸術と災害文化が融合する施設ってほかに例がないものですから、逆に早めに手をつけて、少しトライアル・アンド・エラーもあるかもしれませんが、それによってどういうふうにシナジー効果を出していくのかということを少し実証実験をしたほうがいいんじゃないかというふうに思いました。

少しちょっと既存のもの、例えばこのメモリアルコンサートなんか、ホームページで拝見する限り、毎年のようにいろいろなところでなさっていると。仙台フィルがメモリアル交流館でのミニコンサートをやるとか、そういったものももう既になさっているというふうに聞いておりますので、これをよりバージョンアップするためにはどうしたらいいのか、あるいは何が障害に、もし何か問題があったらそれは何なのか、そういったあたりを検証して、それも盛り込んでいただくと、より実効性の高いこの報告書になるんじゃないかなというふうに思いましたので、この7ページのところで、とてもいいので、そこに何らかの形で検証結果もちょっと踏まえていただけるといいなというふうに思いました。 ちょっと長くなりましたが、以上です。

○郡市長

ありがとうございます。重要なお指摘だというふうに思います。

開館までの助走期間というふうにおっしゃられましたけれども、そういう意味では、皆様のご理解をいただくためにも取組が重要だというふうに認識しておりまして、いろいろとここはこれまで以上に取組を進めていかねばならないというふうに思っているところです。

何か事務局側から言えることがあれば付け加えてお願いします。

○事務局（田中震災メモリアル事業担当課長）

ご指摘につきましては、まさにそのとおりという形で考えておりまして、特にメモリアルに関するお話をさせていただきましても、2つ目の○に書きましたとおり、記憶とか経験の風化というのが進んでいく中で、このプレ事業につきましては早期に着手する必要があると考えてございます。

ですので、今回の資料の中でこういった方向性のほうはお示しをさせていただきましたので、次年度からこういったプレ事業について、メモリアルのほうは当然進めていかなければなりませんし、ご指摘ありましたように、例えばメモリアルコンサートのバージョンアップですとか、そういった部分で文化芸術と融合した取組についても、基本計画の検討と同時に先行しながら進めていきたいと思っております。

○垣内委員

度々すみません。私はちょっと音楽ホールのほうを専門としておりますので、メモリアルもそういう先行事業が大事だというのはよく分かるんですけども、実は音楽ホールのほうも大事なんですね。2,000席の新しいホールができるということであれば、NPOさんとか音楽団体さんとか、様々な業界団体さんも大変期待を持たれていると思うんですね。また、様々なアウトリーチ活動とかもいろいろなさりたいんじゃないかと思う。そういったものをうまくネットワークしていかないと、音楽ホールのほうも、仙台フィルがあるからというだけでは、なかなかこれ十分に活用できないんじゃないかという懸念もあります。メモリアルだけではなくて、この音楽ホールのほうもぜひ先行事業のほうを進めていただければと思います。

そんなに予算は大きくないです。建物を建てるのに比べれば、もう本当に微々たると言っちゃいけないんですけども、非常に僅かなお金で、きちんとした効果が上がるマネジメントの手法とかやり方とか、それからネットワーク、人と人とのつながりができるといことが施設ができたときに非常に役に立つということなので、ぜひ音楽のほうも文化芸術のほうも先行事業はよろしく願いいたします。

○郡市長

ありがとうございます。

では、音楽ホール側からの事業展開について、助走期間の事業展開について何かご説明すべきことがあれば。

○事務局（金子文化観光局長）

音楽芸術関係ですけれども、仙台、これまでもせんくらなどをはじめとして、市民文化事業団と仙台市だけではなくて、いろんなボランティアなんかも含めて多くの関係者の方とネットワークをつくりながら、日本中の様々な芸術家の方々も、せんくらの場でいろいろ人間関係をつくっていただいて、それが次に発展していくという事例もつくっていただきながらいろいろ進めてきたという仕組み、取組ございますので、今後この複合施設の検討が、この後、基本計画、それから設計というふうにだんだん具体化していく中で、しょっちゅうこういう関係の方々からのヒアリングを恐らくさせていただくと思います。その中でお話をお聞きしながら、平行して具体的に今できることについてちょっといろいろお話をお聞きして、ただ、数年先になりますので、途中で疲れないように、ちゃんと前も見ながら、盛り上がったけれども、出来上がる頃にはならないように、先を見据えながら、一步一步着実にステップアップしていくような、そういうような形で進めていきたいなというふうに思っております。

○郡市長

よろしいでしょうか。頑張ってます。
では、佐藤委員、お願いします。

○佐藤委員

仙台には優秀な演奏家がたくさんいます。特に若手の人たちがどんどん伸びていますので、そういった方々にぜひとも場を与えていただけるような仕組みをつくっていただけると本当にうれしく思います。皆さん本当に、この複合施設、楽しみにしていられるので、ぜひよろしく願いいたします。

○郡市長

ありがとうございます。
今、資料の3-1、2についていろいろと皆様方と意見交換させていただいております。連携・協働事業の推進ですとか、それから目指す具体化ですとか、その他のところでも何かご意見があればお話いただければと思います。
では、梶委員、お願いします。

○梶委員

先ほどの垣内委員と佐藤委員のお話ともつながっていくんですけども、連携・協働事業の内容を読んでおきますと、やはり高度な専門性がないとなかなか実現していかないことなのかなというふうには感じております。それぞれ音楽ホールの専門性も高くないといけませんし、メモリアル拠点のほうもやっぱり専門性が高くないとなかなか、それぞれが専門性が高いことが重要なことと思っております。それに基づいて連携する事業というのが成立していくんじゃないかと思っております。

こちらに列挙されているところを読みますと、それぞれがもちろん価値があることで、とても重要なことだと思うんですけども、これを全部通年でやっていこうと思うとな

かなか難しいところもあると思うので、これからは一つ一つ、通年でやっていくもの、定期的にやっていくもの、記念的にやっていくものなど、位置づけを明確にしながら計画を立てていくといいかなと思いました。

そして、ここにつながるための開館までの事業のあり方なんですけど、こちらについても、私も音楽のほうを中心ではありますけれども、やはり地元のネットワークをきちんとつくるということが大変重要だと思っております。せんくらでやっている東京に住んでいるアーティストの方たちをお迎えするのもすごく重要なことではあるんですけども、やはり地域の人たちのネットワークが最終的に地域を支えることに大きくつながっていくと思いますので、ぜひ、これから開館まで10年近くある中で、少しずつでもいいと思うんですけども、地元の人たちを活用したアウトリーチ活動みたいなものを積極的に誰かが担っていかなければいけないんですが、それが市がやっていくのかどうかというのはちょっと私も分からないですけれども、そういう活動もきちんとしていって、この来る開館のときにいろいろなものがすぐにできるような体制はつくっておくべきだなというふうに思いました。以上です。

○郡市長

ありがとうございます。

本杉委員も、では、お願いいたします。

○本杉委員

2点あって、1つは、まず3ページ目のところの四角でくくってある①の2つ目の丸で、「施設全体が多様な目的を持った人々で賑わう」というところなんですけど、目的を持った人はもちろん、目的を特に持たなくても訪れたいなとかというように、やっぱり目的がなくても来たいな施設を目指すべきじゃないかなというのがまず1点です。

それと2点目は、垣内委員などが先ほどから言っている7ページ目の開館までの事業のあり方で、この資料3-2のところ、今回の施設が創造発信拠点で、そのほかに地域文化推進拠点があるという、こういうくくりでこの施設を位置づけているということに基づいて考えていきますと、やはり地域文化活動というのもとても大事なので、梶委員なんか東京文化会館でやっているような、リーダーを育成していく、活動の指導を担ってくれるような人たちを支援していくような活動をぜひこの機会に始めていかれるといいんじゃないかなというふうに思います。それが地域文化活動のほうにつながっていくし、それが創造発信にもつながっていくというふうに思います。ですから、ぜひそういう活動のリーダーになるような人を支援していくという試みを始めていただきたいなと思います。

もう一点は、観客をどうやって増やしていくかという、ホールのほうでいいますと、やっぱりそれは大きな課題でして、高齢化が進んでいる現在、東京なんかでも、もう昼間の公演が中心で、夜の公演が本当に僅かというくらいですけれども、そういう中で、やっぱりいかにチケットを簡単に手に入れるようなシステムをつくるか、あるいはそういう情報にたどり着けるかというところを、これは施設だけではできないので、関連する組織等、協力してやらなきゃならないかと思うんですけど、ヨーロッパなんかじゃもう

20年以上前からチケットの電子化が進んでいるのに、日本は全然進んでいなくて、しかもまた、コンビニまで行かなきゃいけないとかいうシステムまであったりして、そんな面倒くさいことするかという感じで、世界中から簡単にチケットを買えるくらいじゃないとやっぱりいけないんじゃないかなと思うんですね。そういうチケットをどうやって簡単に手に入るようにするか、あるいはそういう活動が、こういう活動が行われているということを簡単に検索できるシステムというものを、大変お金のかかるシステムかもしれませんが、試みてほしいなと思います。

それともう一つは、仙台が今までいろいろなコンクールやせんくらなんかでやっているようなことに引っかけてと言うと変ですが、その催しの中に、何かこれに関連するような催しを1つ加えていただけたらなと思うんですね。その中に先ほど申し上げた指導者を育成するというのがあったっていいし、子供向けのものがあったもいいし、この間、我々がやったような、ああいうものがあったもいいですし、何か、こういう活動を新たに始めるんです、あるいはもっと大きな活動にしていくんですということを宣伝するといいますか、広めていく場にもなると思いますので、せっかく数多くの活動をしているので、それを専門的なその場だけ、何ていいますかね、コンクールならコンクールだけ、フェスティバルならフェスティバルだけじゃない、今度あの施設につながっていくものをひとつ組み込んでもらいたいなというのは思います。

それともう一つ、欲張りですけども、工事が始まったらになってしまいますけれども、工事中にも工事現場で催しをやるとか、あるいは工事の見学会を市民の人に見てもらおうとかということも、なかなか工事現場を見てもらうというのは本当に大変なことで、もちろん建設会社が了解しないとなりませんし、消防署も納得しなきゃならないんですけども、私が経験した中で言うと、ハンブルグのエルプフィルハーモニーというのができたときに、すごい長引いたんですけども、あの工事は、工事中の現場に、ある、ホワイエレベルなんで、フォーラムと呼んでいるレベルですけども、そこで一般のお客さんを対象に、あれはブラームスの「ドイツ・レクイエム」を題材にしたコンサートが行われました。

お客さんはみんな身分証明書を持って、登録した人しか入れないようなシステムで切符の売り方をされていて、工事用のエレベーターで、何階かな、5階か何階か分からないけれども、上のほうまで工事用のエレベーターで上がって行って、そこに本物の芝生が敷いてあって、そこで本物のピアノを動かしながら、オーケストラというか、オケもあったし、それから合唱もあってというすごくびっくりするようなものにして、こんなことができるんだと思ってびっくりしたんですけども、本当にもう寒い時期で、10月でしたけれども、非常に寒い日でしたけれども、そういうような催しというのは非常にファンを増やしますし、いいことじゃないかと思います。

それから、工事中の見学というのも世界のホールでは時々やっていますと。一般の人たちを抽せんで選んでいるのかどうかは知らないんですけども、そういうのもぜひ組み込んで行ってあげたらなと思います。新国立劇場ができたときも、工事中に、設計と建築の関係者の家族、友人を対象にした事前登録でそういうのをやりましたけれども、あれもとてもいい催しだったなというふうに思います。以上です。

○郡市長

ありがとうございます。

今、本杉委員からは、3点、具体の例もご紹介いただきながらご提案をいただきました。ありがとうございます。

デジタルの技術についてはものすごく進歩が激しくて、これから実際の施設が出来上がる頃にはどのような世界になっているのかというのをなかなか見通せないところはないわけではないんですけれども、しかし、やはりそのときにどうであるのかということ想像しながらやはり取り組んでいく必要はあろうかと思えますし、工事中の施設を活用するというお取組についても、大変面白いお取組をご紹介いただきましてありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。いかがでしょう、もしなければ、ここで一旦休憩を挟ませていただこうかと思えますが、よろしいでしょうか。

それでは、恐れ入りますが、15時再開ということにいたしまして、10分間休憩とさせていただきます。

(休憩・再開)

○郡市長

それでは、再開をさせていただきたいと思えます。

闊達なご議論をいただきまして、基本理念、それから目指す施設像等のご議論、意見交換をいただきました。いただいたご意見につきましては、これから事務方といろいろ委員の皆様方とメール等々でやり取りをさせていただきまして、次回までにまとめさせていただきます。

ということで、この基本理念、目指す施設像等についてということを終えてもよろしゅうございましょうか。

(「はい」の声あり)

○郡市長

それでは続きまして、資料4からの議論に入ってまいりたいと思えます。

では、まず事務局のほうからご説明をさせていただきます。

○事務局（佐々木文化企画推進担当課長）

それでは、資料4-1をご覧ください。

こちらの資料は、施設のハード面を記載した資料となっております。

まず、1ページから2ページ目にかけての(1)には、基本的な考え方として①から⑤番までの考え方を載せております。

また、2ページの(2)には、施設構成の考え方を載せておりまして、表のとおり①から⑤までのエリアに整理をしているところでございます。

ポイントといたしましては、表の上に記載しておりますが、それぞれのエリアが完全

に区画され隔てられているのではなく、連続性を持ってつながり、共用や相互利用がなされるような施設を目指してまいりたいと考えております。

飛びまして、4ページでございますが、こちらにはこのエリアの施設構成イメージ、それから5ページには、床面積の想定を載せているところでございます。以下6ページ目以降には施設の詳細なものを載せておりますけれども、詳細な説明は割愛をさせていただきます。

なお、修正すべき点等ございましたらご意見をいただければと存じます。

続きまして、資料4-2をご覧ください。

こちらは、前回の懇話会でお示しをいたしました音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の施設構成案と今回の複合施設案とを比較いたしまして、どの部分を整理統合したかが分かるようにしております。

結果といたしましては、右下に記載のとおり、床面積で合計3万1,000平米から3万2,000平米となっております。単純に両施設を足し合わせたものから約1,000平米程度の削減となっているところでございます。

続きまして、資料5-1をご覧ください。

まず、(1)には、整備手法として、従来型の分離発注方式とPFI方式の概要や、それぞれのメリット、デメリットを記載しているところでございます。

それから、3ページになりますが、(2)には、管理運営主体として指定管理者制度の導入が選択肢となること、また4ページの(3)には、管理運営体制として、ホールとメモリアルを分けて運営するのか、あるいは完全に一体のものとして運営していくのかの2つのパターンの考え方を載せております。いずれも基本構想段階で結論を出すものではないと考えておりますが、委員の皆様のご意見を頂戴できればと考えております。

それから、5ページには、音楽ホールの収支の考え方を記載しております。

公益性の高いホール施設の場合、貸し館収入や事業収入などに加えまして、設置自治体からの収入により運営するのが一般的でございますが、その収入を上回る社会的価値や経済的価値を生み出すことが重要であると考えております。また、稼働率の向上や外部資金の獲得、コストカットなど、可能な限り自治体の負担を減らすことが求められると考えております。

それから、6ページには、他都市における経済波及効果の例を挙げておりまして、1.6倍程度の経済波及効果があるということ載せているところでございます。

○事務局（田中震災メモリアル事業担当課長）

続きまして、(2)中心部震災メモリアル拠点についてでございます。

メモリアル拠点でございますが、新しいタイプの施設を目指しているところから、他都市事例との比較、現段階では困難でございます。人件費、事業費等につきましては、今後、基本計画に向けて精査を進めてまいります。

なお、その検討に当たりましては、関係施設・機関との協働・分担を図り、経費の縮減に努めること、あとは、優遇税制の活用や積極的なセールス活動の実施による収入増のための取組も検討してまいります。

なお、入館料、貸館料の徴収につきましては、今後慎重に検討してまいります。

○事務局（佐々木文化企画推進担当課長）

それから、7ページ、周辺との関係についてでございます。

これまでの懇話会で話題に出していなかったものとしたしまして、（2）国際センター駅との関係についてがございまして、地下鉄でいらっしゃる方が雨にぬれることなく施設に入れるような方法など、望ましい在り方を今後検討してまいります。

また、8ページの（4）番になりますけれども、公園敷地、河川敷との関係についてでございます。

敷地の東側は、桜の小径などがございまして、開園済みの公園という位置づけになっている部分はございますが、近年、水辺を活用したにぎわいを生むミズベリングという手法も提唱されておりまして、他都市の例を参考としながら望ましい在り方につきまして検討してまいりたいと考えております。

○事務局（田中震災メモリアル事業担当課長）

続きまして、10ページをご覧ください。

4. 整備に係る基本的事項・留意事項についてでございます。

まず、（1）「杜の都」「防災環境都市」にふさわしい施設整備に向けてでございますけれども、1点目、エネルギーコストと環境負荷の低減を図ること、2点目、自然環境への影響を可能な限り回避または低減するよう配慮していくこと、3点目、屋内緑化に取り組むことでございます。

次に、（2）SDGsとの関係性でございますけれども、最終的には全てのゴールの達成の助力となることを目指してまいります。特に本拠点の取組につきましては、ゴールの4、10、11の達成に資するものであるというふうに考えてございます。

続きまして、11ページ目をご覧ください。

（3）駐車場、駐輪場についてでございます。基本計画の策定過程におきまして、駐車場、駐輪場の適切な在り方、規模の検討を進めてまいるとともに、併せて渋滞緩和に向けた取組についても検討をしてまいります。

最後に、（4）施設の長寿命化・災害への備えでございます。

1点目、長寿命化保全計画の策定、2点目、耐用性やメンテナンス性を考慮した部材・機器の選定、3点目、災害発生時においてもその機能を喪失しないような建築上の配慮を行う必要性についてお示ししてございます。

なお、一番下の四角囲みの部分でございますけれども、本施設は、物資備蓄等、災害時において直接的な役割を担うという想定はしてございませんけれども、本市及び他都市で大規模な災害が発生した場合には、各種の情報提供ですとかノウハウ提供、あとは支援の呼びかけ、こういった役割を積極的に果たしてまいりたいと考えてございます。

○事務局（佐々木文化企画推進担当課長）

それから、12ページ、5. 整備に向けた今後の進め方でございます。

（2）整備事業費につきましては、他都市の文化施設の例などから、1平方メートル当たりの建築単価を105万円程度と想定しているところでございます。

また、(3)のスケジュールでございますが、分離発注方式で行った場合の想定として、令和13年度中の竣工・開館を目指してまいります。

最後に、資料5-2をご覧ください。

こちらにつきましては、前回の懇話会でも取り上げましたMICEとの関係につきまして、関係者の方からいただいたご意見に対する現時点での本市の考え方を整理したものでございます。詳細な説明については省略をさせていただきます。

資料の説明は以上でございます。

○郡市長

ということで、ただいま、複合施設の施設概要、整備の考え方についてご説明を申し上げます。

今ご説明いたしました件につきまして、委員の方々からご意見を頂戴してまいりたいと存じます。先ほどと同じように挙手をしていただきまして、ご意見を発表いただければというふうに思います。よろしく願いいたします。さあ、いかがでしょうか。

では、本杉委員、よろしく願いいたします。

○本杉委員

全体としてはいいと思うんですけども、いろんな表現のことでちょっと気になる点が幾つかあったので、数は多いんですけども、お話しさせていただきます。

まず最初の施設の考え方の②のところ、(1)の②の2つ目の丸のところ、「ワークショップスペースや」、ずっとあって、「中で行われている活動が室内で完結せず、外へと染み出していくような造りとします」というふうに言っている点ですが、気持ちは分かるんですけども、まず大事なのは、部屋として性能が担保されているということが第一に重要なので、これを強調し過ぎないでほしいなというふうに思います。建築やっている人は、どうしてもこういうことをしがち、したがると言うとな変ですけども、部屋をオープンにして、外とつなげるということはとても積極的にやりたがるというところがあるんですけども、なので、まずはそれぞれの性能をきちんと担保してあげて、場合によっては必要に応じてそういうことができるというぐらいの表現のほうがいいかなというのがまず1つ目です。

それから、次のページで、一番上に書いてあります3行目のところで、「そのため、ホールエリア等の舞台機構や設備を、高度な専門技術がなくても取り扱える」というのはちょっと書き過ぎで、これはちょっと危険なので、講習会とか実習とか、そういったことで学習した後であれば、ある程度までは一緒に、手伝い程度のことはできるけれども、専門技術がなくても取り扱えちゃうと、専門家の立場なくなっちゃうというよりも危険なので、ここは注意深く記述してほしいなと思います。

それから、ずっと後のほうの主要施設の方向性というところで、大ホールのところで2つ目の丸で、「舞台の音響反射に係る設備は可変とし」、ずっとあって、「『プロセニウム形式』に転換できるホールとする」というよりも、プロセニウム形式も、プロセニウム形式と両立できるというような表現のほうがいいかなというふうに思います。

それに関連するんですけども、その次の舞台関係という項目の一番上のところで、

「音響反射設備を設置した形式をホールの常態とする」というふうに書かれているんですが、動く設備を常態とするというのはあまりないことなので、音響反射設備を設置した形式とプロセニウム形式相互への転換が可能で、できる限り短時間云々というような、そういったような表現のほうがいいんじゃないかなと思います。

それから、その次の行で2つ目の丸で、その丸の2行目で、「舞台の高さまで上げてステージの一部とする」というふうに断定するんじゃなくて、「としても使えるものとする」とかというように、いろんな使い方ができますよというふうな表現にさせていただいたほうが良いような気がします。

それから、楽屋関係のところで、「様々な広さ・設備を備えた楽屋」というんですけども、楽屋って、設備はありますけれども、そんな書くほど設備はないので、設備という言葉はなくてもいいんじゃないかなとか、あるいはその2つ目の丸で、「できる限り音出し調音ができるよう防音性に配慮し、一部の楽屋は」云々と書いてあるんですが、もし調音できる部屋を設けるのであれば、楽屋をそうするのではなくて、調音する部屋を用意したほうがいいんじゃないかなと思います。というのは、楽屋をそうしちゃうと、その人しか使えなくなってしまいますので、むしろ別の部屋を設けて、誰でもというか、出演者が必要に応じて使えるような計画のほうが好ましいんじゃないかなと思います。

それで、楽屋は一般的にホテルの客室程度の遮音はしているんです。ですから、ある程度の音は出せるようには、普通の計画では、劇場の計画ではしていますので、あまりこれを高い防音レベルとすると、やっぱり完全に音が外に漏れない、あるいは外の音が入ってこないというような性能になってくるので、そこは注意して書いてあげたほうがいいんじゃないかなと思いますし、コストに即影響してきますので。

それから、楽屋はそれで、小ホールのほうも同じですけども、音楽リハーサル室のところで、各種事項で、「公開リハーサル等に対応できるよう、区画された小規模な観覧席を設ける」と書いてあって、観客を入れた催しをやっていただくのはいいと思うんですけども、この区画されたという意味がどういう意味なのかによって、ちょっと動線が複雑になってきそうなので、今の段階でここまで書かなくてもいいのかなというふうには思います。

それから、ちょっといっぱいあって申し訳ないんですが、それから次のページで、舞台芸術リハーサル室で、「演劇、舞踊などの主ホールでの公演のリハーサル、通し稽古などに適した」という表現で、一般的に通し稽古は舞台でやったほうがよいので、「リハーサルなどに適した」というふうな単純な表現のほうがよいように思いますし、2つ目の丸で、「大ホールでの舞台演出等を再現、確認できるよう、必要な舞台設備」というと、必要というと、本当に場合によったらとても大きな設備になってくるので、簡単な設備でいいと思うんですね。そんなに充実した設備じゃなくてもいいので、ここはちょっと注意した書き方をさせていただいたほうが良いように思います。

それから、その下の各種事項の丸の3つ目で、「多様な活動に対応するための床面養生用シート」云々と書いてありますが、あまりここで細かく説明するよりも、床養生シートからずっとカットしていただいて、「対応するための備品庫、控室を整備する」という簡単な表現でいいんじゃないかなというふうに思います。

それから、災害文化創造支援エリアのところで、大型壁面モニターとか大型ビジョン

とか大型映像ビジョンというのが、交流連携スペースとインフォメーションスペースと交流ロビーゾーンに出てくるんですけども、3か所で、あればそれにこしたことはないんでしょうけれども、大型というのはどのぐらい大型なのかにもよるんですけども、そう安くないものをあちこちにつけるわけにはいかないと思うので、やっぱり丁寧に考えて、必要なところにこういう記述をしていただいたほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

それから、交流ロビーゾーンの概要の下から2つ目の丸で、「施設で行われる事業の魅力伝えたり」云々というふうなところで、「仙台のこれまでの歩みや魅力を紹介する展示スポットを設ける」というところなんですけれども、こういう展示のスポットって、注意しないと本当に安易なものになってしまうので、ここで積極的に書くかどうかも含めて、何かもうちょっと考えたほうがいいんじゃないかなと。やるんだったら本当にちゃんとしたものを作ってほしいと思います。それよりもやっぱりホームページとか誰もが簡単に見られるところを充実していったほうがいいと思いますし、その点は何か考えていただけたらというふうに思います。

それから、その下の広場エリアのクワイエットスペースで、検討事項の丸の初め、1番目の丸で、「本施設のシンボルとして、印象を残す設えや配置が望ましい」と書いてあって、本施設の大事な施設で特徴ある施設だとは思いますが、本施設のシンボルとまで言い切っちゃうのはちょっとどうかな、というふうに思います。

以上、ちょっと長くなりましたが、気になった点です。

○郡市長

ありがとうございます。いろんなところのご指摘をいただきました。

今、事務局のほうで、何か今の本杉委員のご指摘に答えられることというのはありますでしょうか。

○事務局（佐々木文化企画推進担当課長）

様々ご指摘ありがとうございます。

特に音楽ホールのほうにつきましては、目指すところは同じなのかなというところで、若干、表現の部分が物足りなかったりする部分がありましたので、その部分につきましては言葉の精査をいたしまして、中間案に載せる内容というのを整理していきたいというふうに考えております。

○事務局（田中震災メモリアル事業担当課長）

災害文化創造エリアにつきましてもご指摘ありがとうございます。確かに大型というところの表現が続きますので、必要な部分を精査した上で、表現のほうを検討していきたいと思います。

○郡市長

ありがとうございます。

ほかの委員の皆様方からご意見ございますか。では、梶委員、お願いします。

○梶委員

先ほど本杉委員からもお話出たんですが、資料4-1の1の④の2ページ目の一番上のほうですかね、「高度な専門技術がなくても取り扱える」ということは、やはり委員がおっしゃったような全く同じ点で、大変危険なので、これは不可能なんですが、ただ、「ホールエリア等の」という「等」に含まれているであろう例えばハーサル室であるとか、そういうワークショップのスペースですとか、そういうものについては専門家しか使えないんだと、もしかしたら使い勝手が悪いかなとは思いますが、そこら辺が、ホールの専門的な技術がないとできないところと、そうじゃなくてもできるところというのを明確に書いていただくとより分かりやすいかなというふうには思いました。

あと、先ほど、楽屋の中の設備についてなんですが、今ここで何か細かいことを言うようなことではないかと思うんですけども、やはり一般的にはあまりない水場の設置とか、オペラやバレエが公演できるようなホールを目指しているとすれば、楽屋の中にきちんと水場を設置していただいて、水場がないことが必ず課題になってしまいますので、そういうようなところはちゃんとあるといいなというふうに感じました。

それから、資料4-2のところにあります最終的に1,000平米の削減ができたというところに関しましても、いろいろな議論が実を結んだなというふうに感じております。とてもいいかなと思っています。

あと、資料5-1にあります複合施設整備の考え方についてなんですが、私個人的な意見になりますが、これは両方ともいい悪いがあるかなと思っています。PFI方式になりますと、本当にすごくささいなことでもなかなか融通が利かないといえますか、結構縛りがありまして、それが長期的に続くということがあって、そこが懸念されるところかなというふうに関し、事業を展開する上ではすごく気になるところかなというふうに感じています。

あと、指定管理の制度について、管理運営体制についてなんですが、パターン1とパターン2、4ページですかね、について、私は個人的に、自分自身が共同事業体でやった経験と、現在1つの団体で運営していることを考えて、私はパターン2のほうがやりやすいんじゃないのかなというふうに関し個人的には思っています。今後、連携事業などをたくさんやっていくことを考えますと、財源を持っているところが違うところだと、結構そのお金のやりくりというのが難しいんじゃないのかなとか、そういうところを懸念しております。

今、館長の考え方とかあるかと思うんですが、1つの館だから、館長1人でももしかしたらいいかもしれないんですが、館長ってどういう位置づけなのかと。経営的なところを見る人が館長なのかなというふうに関し考えますと、施設の運営を2つを1人の方が見ても構わないんじゃないかと。その代わりに、芸術的なところを見る場所は、ホール側とメモリアル拠点ではまた別々の人を配置するなどすると、ちゃんと専門性も担保できるような運営ができるんじゃないかというふうに関し思いました。

あと最後に、駐車場についての記載があったんですが、地方の都市だとちょっとよく分からないんですが、駐車場収入というのも劇場の運営に大変貢献してくれる重要な財源になったりしております。東京ですと、やはりその収入があるなしですと、かなり

大きな資金的な差が出てきてしまうというようなことがありますので、もし、駐車場があるんだけど、無料で開放するつもりになっているのか、そこも附帯の設備としてきちんと収入源としてカウントしていくのかということは一回考えたほうがいいのかなというふうに思いました。以上です。

○郡市長

ありがとうございます。重要なお指摘いただいているところです。
ほかの委員の皆様方から何かございますでしょうか。
では、垣内委員、お願いします。

○垣内委員

資料の4-1の1ページ目のところなんですけれども、私は、この②の一番最後の白丸、「気軽に立ち寄りや通り抜けができるような、開かれた施設づくり」、これが非常に重要かと思っていて、それは先ほど来議論したミッションに関わる部分、人と人をつなぐといったときに、有料ゾーンと無料ゾーン、有料でお金を払わなければなかなか入れない施設というところは非常にハードルが高いと。もし人と人とをいろいろな形でつないでいくということを前面に押し出すのであれば、この部分はもっと最初のほうに来てもいいんじゃないかぐらいの重要なポイントではないかと思えます。

これは多分、事務局もよくご案内だと思いますけれども、金沢21世紀美術館、あれはもうミッションの中に、あの美術館は地域の一部だと、あの土地の一部だから、当然、通り抜けをしたり、そこで休んだりすることができる、そういう部分をできるだけ多く取るということで、無料ゾーンの通り抜けとか、気軽にいらっしゃる方々のほうが有料ゾーンで美術を鑑賞される方よりもはるかに多いという、そういう、そこまで人々の生活に溶け込んでいるという部分があります。

なので、今回のこの施設につきましては、この部分とても重要なところなので、もう少し重要性が分かるように書いていただくといいかなというような気がいたしております。青葉山エリア内のほかの施設を来訪する方だけじゃなくて、お散歩の方も、それからそこら辺にたまたまいらっしゃった方も含めて、皆さんがふらっと入れる、ハードルの低い、そういう地域の一部のような施設であってほしいなというふうに思います。

2点目は、この資料の4-2のほうで、ちょっと気になったのは収録室なんです。どういう設備を考えていらっしゃるのか分からないんですけれども、ほかの施設だと、デジタル技術、ものすごく進み方が激しいものですから、わざわざ収録室を使わなくなってしまうという方々も結構多いというようなことを聞いておりますので、そのあたり、何かお考えがあるんだろうと思えますけれども、ちょっとご検討いただければなど。せっかく造ったのに、結局、技術革新が進んでしまって、なかなか使われないような形で、そのまま残ってしまうということだけは避けていただいて、より汎用的な先端技術にふさわしいような施設を造っていただくといいなというふうに思っております。私が誤解しているだけかもしれませんが、ちょっとコメントだけです。

資料の5-1なんですけれども、このPFIと指定管理なんですけど、PFIって意外に準備が大変そうで、しかも、施設、ハードの分でものすごく細かく、日照がどうだと

か、この構造はなんだとか、一度だけちょっと委員をやらせてもらったんですけども、全然専門外だったんですが、ものすごい大変で、しかも、そこまで準備して、もうみんなへろへろになるまで頑張って、できたものはどうかというと、ちょっと足して2で割ったようなものができて、これはすごい失礼なこと言いましたが、むしろせっかく民間の活力を導入するということであれば、指定管理のほうがいいんじゃないかなという感じもいたしました。

それから、4点目ですけれども、MICEのことで、ちょっと気になっているのは、国際センター内で対応し切れない基準に合致するような大規模学会に絞った上で優先予約ということなんですけれども、音楽ホールのほうも大きなイベントはもう何年も前からの優先予約が必要になってきますので、メモリアルもそうなのかもしれませんが、そういった本体業務に差し支えない点についてはぜひご配慮いただければと思います。以上です。

○郡市長

ありがとうございます。皆様方から重要なところをご指摘いただいております。

私からちょっと1点、垣内委員にご質問なんですけれども、収録施設、これについてはほとんど使われない方向になってきているというご指摘ありましたけれども、少し具体のところをちょっともう少しご紹介いただけますか。

○垣内委員

設備がとにかく老朽化するというか、そのときは非常に最先端のものでニーズもあったと思われるんですけども、年々利用率が下がっちゃって、しかもそれをほかのものにコンバージョンするためには相当な費用もかかるということもありますので、ちょっとそこら辺、幾つか存じ上げているものですから、ちょっと懸念いたしております。ほかのことを考えていらっしゃるのかもしれないんですけども、すみません。

○郡市長

ありがとうございました。

それでは、川内先生、よろしく申し上げます。

○川内委員

1点だけ質問させていただきたいというか、資料5-1の11ページ、4.整備に係る基本的事項・留意事項の(1)(2)(3)(4)とあって、一番下に付けたような形で、本施設は、いわゆる物資の備蓄等は想定しないけれども、大規模災害が発生した際には、主に情報関係の支援拠点になるというふうに読める文章を記載しているんですけども、この施設の性格にも関わることで、できるのであれば歓迎したいと思うんですけども、ここに書きちゃうということは本当にやるんですかという、つまり災害時の物資ではないけれども、情報関係の支援拠点としてもこの施設を位置づけるということをお考えかということをお聞きしたかったということです。以上です。

○事務局（田中震災メモリアル事業担当課長）

本拠点の役割、川内委員はもう十分ご存じのとおりだとは思いますが、3.11 含め過去の災害の教訓から未来の災害の備えを行っていく災害文化の創造拠点という役割でございますので、こういった本市の経験というものを他都市等に伝達していくというのは非常に大事な役割ではないかなと考えてございます。ここにお書きしているとおりの機能につきましては、実現の方向に進めていけるよう今後検討のほうを進めてまいりたいと考えております。

○川内委員

分かりました。それであればその方向に進めていただきたいですし、そのためにはそういう人材をちゃんと確保してくださいという希望をお伝えさせていただきます。以上です。

○郡市長

ありがとうございました。

では、今野委員、お願いいたします。

○今野委員

資料4-1の2ページですね。私が思うに、複合施設ということが一番最初にお聞きをしたときから一番大事な要素だろうなというふうに思っていたのが、このところに（2）のところうまく集約されていっちゃうような気がしています。完全に区画されたスペースがただあるということではこの施設の意味ないはずなんで、それらが空間として連続性を持つ、また、運営的に大変かもしれませんが、先ほど館長さんのお役回りのお話も出ましたけれども、そういう両方をうまくコントロールしたり、機能の融合を図ったりというふうなことが多分この施設の一番のポイントになってくるんじゃないかなというふうに考えております。

それと、実は立場上、地元の経済界のほうからは、これから新しい公共施設を造るのであれば、PFIを導入しない方式はないよねというお話はさんざん聞かされます。ただ、今、梶委員、それから垣内委員さんのほうからも、それぞれ、デメリットもあるんだよというお話聞きました。それだけ、繰り返しになりますけれども、管理運営の部分で非常に新しい手法を取っていかなくちゃいけないといったときに、果たして、はやりのPFIの手法がいいのか、指定管理で少し、すばらしい組織さんをお願いをしたほうがいいのか、この辺はちょっとじっくり研究する必要があるんじゃないかなというふうに感じた次第です。以上です。

○郡市長 ありがとうございます。

今野委員のご指摘も、経済界の皆様方のお考えも私もいろいろと聞かせていただく機会が多くございます。いずれにせよ、市民の皆様方に、そしてまた、地域の活性化にもつながるような形、考えていかなければならないんだろうというふうに思うところでございます。

そのほかにご意見があれば。では、遠藤委員、お願いします。

○遠藤委員

今後の運営の経費などの観点に関わるのかもしれないんですけども、中心部震災メモリアル施設は音楽ホールとそれぞれの特性が違って、ある意味、これから仙台の将来を担っていく子供たちが、しっかり学んだり、あとは一緒に研究したり、それを実験したりという場所にもなってくるかと思うんですけども、そうしたときに、この震災メモリアル部分をどういう機能として位置づけるかということですね。学校教育と連携をして、学校の方々にはなるべく負担のない形で、しっかり学んだり、実験したり、研究したりしていただけるような仕組みで活用できるといいんじゃないかなと思っています。

ちょうど先日伺ったところ、荒浜小学校は、仙台市立小学校の皆さんが全員行かれていますというお話も伺いましたので、やっぱり小中学校の頃にしっかり学んで感じて、そして中高生、大学生でいろいろ研究をして、創造的な発展につなげるということが大事かなと思いました。

もう一点が、この運営に取りかかる前の、今、市役所の中でも2つの部局で進めているわけなんですけれども、この市役所の中の進め方というのも結構大変じゃないかなと思うんですね。

先ほど、図の中に、いわゆるコンテンツ、いろんな人とテーマをつなぐコーディネーターの重要性という記載がありましたけれども、あともう一つは、市役所の中の各部署をどうつないで、かつ市役所と民間のNPOや企業の皆さん、民間の方と市役所をどうつなぐかという、その組織間連携、コンテンツのテーマと加えて、組織間連携というのはかなり人によるところも大きいので、これだけいろんな多様な資源と話題がそろっている仙台のこの状況を、ある意味、最後に生かすも殺すも人次第みたいにならないように、これも少し事前に、庁内連携、あと民間との、あと市民団体とか、民間と企業との連携ということももう既に始めながら、開けたらそれがすぐ機能するというような形で準備していただけたらなと思いました。

○郡市長

ありがとうございます。重要な視点です。

では、佐藤委員、お願いします。

○佐藤委員

今お話しするのがいいのか、今の話につながるかと思うんですけども、以前にも話題として出させていただいた音楽による復興センターというものが、両方の橋渡しをできる、今、仙台市がやっぱり、何ですか、その復興センターも十何年の経験の蓄積がありますので、そういったものを、施設の構成なのか、どこかに位置づけがされているととてもいいんじゃないかなというふうに、ただ、それが今の段階でお話しすることかどうかは分からないんですけども、ぜひとも何か位置づけをお願いしたいというふうに思っていました。そのあたりは市役所のほうでも情報は私なんかよりもお持ちかと思う

んですが、そういったところは検討していただけるのかどうか、よろしければ聞かせていただければと思います。

- 事務局（中山文化観光局次長） 復興センターのほう、ご承知のとおり、震災後すぐに立ち上げて、いろんなところで復興コンサートをやって、被災者の心を癒やしてきたという歴史がありますけれども、ぜひこのノウハウについては音楽ホールが引き継いでいきたいと思っています。

書きぶりはちょっと考えなくてはならないんですけれども、やっぱり仙台の震災だけではなくて、例えば熊本が、何年前かな、平成28年ぐらいに4月に大きな地震がありましたけれども、そのときに、やっぱり音楽が地域に入っていくということで、結構難しいんですけれども、地域への入り方というか、そういうノウハウをしっかりと復興センターが覚えていて、震災があると、ノウハウを教えてくださいといろんなところから来ます。なので、このノウハウを継承することは非常に大事だと思っていますので、ちょっと書きぶりはあるんですけれども、しっかり音楽ホールにそのノウハウは引き継いでいきたいというのは思いとしては強いというところでございます。

- 事務局（梅内まちづくり政策局長）

遠藤委員のお話にも関係しているんですけれども、私どものほうでは、毎年3月11日近辺に仙台防災未来フォーラムを開催しており、今年は世界防災フォーラムという、災害研の先生方を中心とした国際学会なども開いて、1週間丸々復興に係るイベント等を開催しています。

防災未来フォーラムでは、まさに地域で防災をやっていらっしゃる市民の皆さんとか、そういった方々に展示ブースなどに出させていただいてというのをやっているんですが、継続的に計9回開催してまいりました。今回は1日で約3,900の方がお見えになって、過去最高を更新しております、こういったことを継続的にやっていく。

あるいは、その中で、震災のことをもちろん中心にやるんですが、10-BOXを日頃ご利用いただいている方々で演劇の形で発表するグループの方がいらっしゃる、また世界防災フォーラムでは、県内の合唱コンクールで金賞を取った仙台一中の皆さんに学会の最後で歌を歌っていただいたんですが、中学校2年生でございますので、3歳のときに震災が来ています。皆さん直接の記憶はないんですけれども、日常的に歌を歌っているときもそんなに考えないけれども、今回、歌を歌うということがあって、12年前のことを少し勉強されたりして、そういう形で日常化をしながら防災をつないでいくというような取組がないと長く続かないなというのをすごく思っています。音楽とか演劇とか、そういった活動の中で伝えている方々の活動が、まさに次の人を呼んで広がっていくんだなというのを今回も経験したところがありますので、遠藤委員のお話にありましたように、教育とか様々な地域活動と連携させながら、こういった取組を進めていくことが大事なんだなというのを今年も実感できたというようなことがございました。

- 郡市長

子供たちが、記憶がちょうどある子とない子と、はざまにある学年の皆さんたちも、

改めて12年目の今年は様々な取組をしてくれて、大変私も心強く思いました。まさにそういうような文化が発信できる拠点、それをつくり出す拠点ということにもつながっていくんだろうというふうに思っています。

○本江委員

幾つか感じたところで申し上げます。

先ほど垣内委員もおっしゃった資料4-1の1ページ目の真ん中の気軽に立ち寄りや通り抜けができるようにするというのは本当に大事で、②の一番下に記載するよりも、一番上に書いたらいいし、そういう場所になるといいなと思います。

ちょっとエピソード的な話をしますが、この間、3月11日には、いろんなところで行事もありましたから、あちこちどんな感じかなと思って見に行ったりしたんですけども、1つ印象的だったのは、みんながちっちゃい子を連れてきているんです。すごくあちこちに赤ちゃんもいるし、本当にちっちゃい子、震災を多分経験していないような子もいっぱいいて、ああいう3月11日に何かあるときに、子供を連れていこうと何となく思うというのがずっと言っている災害文化だと思うんですよ。

何となく見せておこうかなと思う、一人一人はそんなに強く意識したわけじゃないけれども、行くことが大事なので、例えばこの複合施設も、子供が退屈そうにしているから、どこか行かなきゃいけないから、とりあえず青葉山に行くかというふうにして、天気がよかったら追廻でたこ揚げをしたり、今日はこっちでピアノ触ってみるかみたいなふうにして、何か特段の用事がないけれども来る、いてもいい、行くとまあ面白くて、いられるみたいな場所であるということは多分本質的に大事なことで、恐らく音楽にとってもそうした構えというのが必要だと思うので、そうした建物にするぞということは大きくうたってあるといいんじゃないかなと思います。それが「創造の広場」ということとつながってくるだろうというので、ここ本当に大事です。

それから、少し各論ですけれども、次の3ページの多目的、多用途利用とって、②のところですね。多目的カンファレンスホールやミーティングルームなどは、どんどん複合していけますよというふうになっていきますけれども、恐らく、メモリアル拠点でやるいろんなワークショップの部屋なんかは、結構散らかしたり、そのまましておかなきゃいけない、1週間ぐらいとか、そういう活動があると思うので、一定の専用のスペースがないとやっぱり回せないかなと思いました。スペックの高い部屋は要らないですけれども、専用のスペースがある程度要するということがあるというのが2つ目です。

それから次のページのエリア構成イメージというダイアグラムがありますけれども、これはお客さん目線で書いてあるので、これでいいと思いますが、裏がつながっていないといけないので、ホールとか活動エリアのところ、車がすぐにつけられるとか、裏回りのところで一体になるということが必要で、コンサートのためにトラックがいっぱい来ますよというお話も書かれていましたが、裏のスペースは結構でかいのが要するというのを覚悟しておかないと、どうしてもやっぱり裏は詰め詰めになりがちですけれども、そうすると使い勝手を下げてしまうし、できることが減るので、どのぐらいがいいかというのはこれから議論だと思いますけれども、すごく大事だというのを、何かこのダイアグラムを書く時点でも、裏がたっぷりあると、そういう懐がありますよということ

は示しておくべきかなというふうに思いました。

それから、これも先ほど議論があったところですけども、本杉先生が言われた、あちこちに「大型モニター」が設置されていますけれども、想像すると、大型ビジョンとか、ばっちり作り込まれた展示物がびしっと置かれていて、何かお客さんがそれをひとしきり見て帰るといった活動イメージがあるので、大型ビジョンをあちこちに置きましょうという空間像になっているんだと思います。

むしろ、施設側から提供するコンテンツを見せるというよりは、映像そのものを作りに来るとか、生の素材を持ち寄ってそれについて話すとか、そういうことをやる場なので、ばっちり出来上がったものを見てもらうというよりは、そういう作業スペースなんだというイメージに寄せたほうがいいんじゃないかなと思います。あちこちに大型ビジョンがあると書いているところに、ほかの施設とは違うぞという感じがしましたので、そこも申し上げておきます。

それに関わることで、先ほど梶委員が水場が要りますよとおっしゃったのは僕も同感で、ワークショップのスペースとか、あと特にメモリアルに関わることでは、一緒に食べるということはものすごく大事なことになるので、みんなで使えるキッチンがあるスペースは必要だと思います。それがどのぐらいの規模かということはありませんけれども、みんなで何か作って食べてみる、簡単に言えば、非常食をみんなで食べてみる会をやるとか、そういうようなことがあるといいし、活動の中にキッチンを使いたいというのが必ずあると思いますので、キッチンのあるワークスペースを取るとするのはぜひお願いしたいなと思います。

それから、11ページにクワイエットスペースというのがあります。以前、こういうスペースが要りますと申し上げたので、少しイメージを説明したいと思いますが、今日冒頭から言っていることですが、みんなが気軽に来られて楽しい施設なんだけれども、東日本大震災があって造る施設だから、そこにはちょっと特別なスペースがあって、子供を連れてきていいんだけど、ここに入ったらちょっと静かにしようとして子供が自分で思うような特別な場所があって、行ったら、例えば亡くなった家族のことを考えたりするようなスペースがある。ふだんはオープンになっていてもいいけれども、何かのときには少し閉じたりもできるような、少し空気が違う場所をちゃんと持っておくということが必要で、この施設にとっての特徴的なスペース、シンボルという言い方は確かに強いと思いますが、この施設だからある、あるいはこのクワイエットスペースがあるということで、いつもはあまり意識していないけれども、そういう特別なスペースなんだということを感じられるような仕立て、これはうまく説明さえすれば建築家がすごく頑張るスペースだと思いますので、そういうような場所を用意しておくことが必要かなと思っております。ちゃんと確保していただけるのはありがたいと思います。

あと、管理運営のところ、様々なPFIのところとかは、今日はいろいろあり得ますということがメニューとして書かれているだけですので、これからということだというふうに理解をしました。

続いて、4ページに館長2人なのかみたいなのも図がありますね。どちらもあり得ると思いますし、一長一短あるんだと思いますが、一つメモリアル側でいうと、荒井のメ

モリアル館とか荒浜小学校が既にありますので、これとどういう運営でやるのかということとはとても大事で、この建物としての一体性に寄り過ぎると、荒浜小とかは、それはそれでやってくれという話になるのかということもありますし、荒浜小学校などとリンクして一体で運営すべきじゃないですか、いろんなことをやるんならば、どのぐらいの切れ目をつけるかは別として。何かそこのところと、この音楽ホールと館として一体であるということと、ちょっとオーバーラップしていますので、そこの整理が必要で、この4ページのところの説明の中にメモ館や荒浜小学校のことがあまり表れてこないのはちょっと心配なので、何かそこをどうするかということも同時に検討していただかないといけないかなと思いました。以上です。ありがとうございます。

○郡市長

ありがとうございます。そのほかには。
では、本杉委員、お願いします。

○本杉委員

資料5-1のほうで少しコメントしたいと思うんですが、今までPFIの話が出ていたんですけども、私も、PFIの持っている良さというのは、ここに書いてある財政負担の平準化ということで、それはそれとしてすごく意義があると思うんです。ただ、やっぱりさっき垣内委員もおっしゃったように、提案者側、準備する側の発注者側にもすごく膨大な作業量が出てきますけれども、今度、提案者側も非常に大きな多大な作業をしなきゃならなくて、作業量が非常に多くなるものですから、そしてチームで応募することになるので、応募者がどうしても多くないんですね。5つもあるということはまずないので、3つあればすごく多いくらいで、場合によったら1つ、最悪はゼロということもあります。ですから、そういった意味では、選択肢がちょっと狭められてしまうというのがやっぱりPFIの難しさじゃないかなと思います。

もちろんコストがある程度意識されるので、逆に提案者からすると今度はコスト意識が強くなって、足して2で割るといような言い方を垣内さんはされましたけれども、そういった新しいことよりも確実なこと、コストが確実に収まることというふうになりがちじゃないかなと思います。特に昨今は建設物価が非常に不安定なので、不安定というか高止まりなので、その傾向が強くなってきてしまうように思います。ですから、できればそうじゃない方式のほうがいいなと。

ここでは従来型と2つしか出ていませんけれども、そのほかにも設計施工が一貫してやるデザインビルド、DBとか、あるいは施工者を早く決めていくというECIとかというのがあります。設計そのものはなるべく設計事務所がやって、施工はまた別でというほうがもちろんいいんじゃないかなと思いますが、どの段階から施工者に入ってもらうか、あるいは協力を得るかということは検討してもいいんじゃないかなと思います。そうすることによって、やっぱりコストというのは、当然、行政も意識されていると思いますので、どういう方式で行うのかはあるとしても、PFIよりかはいいんじゃないかなというふうに思います。

メディアテークのような、ああいうオープンなコンペというのはとても魅力的で、建

築側からすると、ああいう競争が行われて、新しいアイデアが出て、建築的にもアイデアが出てくる。世界中から応募があるという、メディアテークの場合、230ぐらいあったんですかね、応募が。申込みは1,000以上あったと思いますが、そういうような大きな盛り上がりを見せるという点ではとても重要です。ただ、やっぱりご心配されるようなこともあるかと思いますが、どの辺がいいのかというのはぜひ検討していかれるといいなというふうに思います。やっぱり大事なのは審査員なので、選ぶ人をいい人を選ぶというのが一番大事なことじゃないかなと思います。

それからもう一点、組織運営体制のほうで、パターン2がいいんじゃないという梶委員のお話は私もそうかなと思います。館長の下にそれぞれの運営を担当する責任者の方がやっぱりいる必要があって、そういう人をできるだけ早い段階で見つけて、関わってもらうということなんだと思いますけれども、同時に、そういうトップの人だけじゃなくて、もうちょっと管理職的な人もできるだけ早く決めておくということが大事で、それを指定管理だとなかなかやりにくいという点はあるのかと思いますけれども、とても重要なことじゃないかなと思います。

というのは、やはり設計段階で決めていくときに、実際に使う人がいない中で大抵の場合決められていくわけで、出来上がってから、あるいは工事中になってから、あるいは、しかも工事の終わり頃になってからようやく運営者が決まってくるとなると、あれをこうしてほしい、これをこうしてほしいとかと言われても、もうできないような状況が多々あります。私たちが設計したり計画したりする場合でも、なるべくそういった責任者の方は、プロデューサーとか芸術監督とか、あるいは技術的な分野でも同じなんですけれども、技術的なリーダーになっていくような人は、ある早い段階で設計なり工事に関与できる体制をつくっていただくのがいいなというふうに思います。

今、舞台技術も非常に技術革新がすごい進んでいます。しかしながら、やっぱり日本の多目的ホールの貸しホール中心の運営でいくと、技術者はどうしても日々の毎日の作業に追われてしまって、保守的な思考になってしまいます。日本の多目的ホールで働く技術分野の人は、世界的から見るとちょっと創造活動に関わるチャンスが少ないので、どうしてもデジタルな思考よりもアナログな思考で機器を選びがちなんです。そういうことをしていると、結局、世界の趨勢からどんどん取り残されてしまうということになっていきますので、そういった意味でも、技術の人に早く入ってもらうということ。

それからまた、仙台市にはホールが幾つかありますので、仙台市だけじゃなくて東北全体でもいいし日本全体でもいいんですが、そういう人が動くような組織の在り方みたいなものをつくっていただくといいなと思うんですね。なかなか劇場分野のホールの人たちというのは、結構上のほうの人たちは動いている人いるんですが、そうじゃないスタッフクラスになると、もうその仕事場についたらそこでずっといるというようなことになってしまって、どうしても新しい技術を習得する、ほかの施設ではこういうことをしているという、そういう学ぶ場というのが制限されがちなので、いろいろなところに行って、いろいろな運営や技術に関わるチャンスがあると、やっぱり人は伸びていくので、そういう点からも運営と人の関係は考えていただけるといいなと思います。

以上です。

○郡市長

ありがとうございます。

時間が、まだ議論は尽きないのですけれども、予定の時間になってしまっているところでございます。一通り皆様方からご意見頂戴したところでございます。具体的な姿がだんだん明確になってきてうれしいなというふうにも思いながら、皆様方のご意見も聞かせていただいたところでございます。

いろいろとやり取り、まだお話もっとあったんだけどもという委員の先生いらっしゃれば、事務局のほうに後ほどご意見をお寄せいただければと思います。それらも整理しまして、また次回に出ささせていただきたいと思います。

次回は基本構想の中間案についてご議論もいただきたいというふうに考えておりまして、ぜひ引き続きよろしくお願いを申し上げます。

貴重なご意見賜りまして本当にありがとうございます。まだ少し足りなかったなという先生方いらっしゃったかもしれませんが、ぜひメールのほうで、やり取りしていただきますようお願い申し上げて、進行を私から事務局のほうに戻したいと思いません。本当にありがとうございました。

○司会

委員の皆様、どうもありがとうございました。

次回の懇話会でございますが、4月中旬の開催を予定しております。

それでは、以上をもちまして、第4回国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会を終了いたします。

本日は誠にありがとうございました。

了